

少年剣道錬成大会開催における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

【大会実施に当たっての基本的な考え方】

(1) 感染源を絶つ

(2) 感染防止の3つの基本

○ 身体的距離の確保 ○ マスクの着用 ○ 手洗い等の徹底

(3) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場面）の回避

(4) 安全な活動環境等の確保

<大会実施時の感染予防策について>

大会期日まで

1. 参加者（選手・指導者・競技役員）へのお願い

【試合に関わる全ての者（大会役員、審判、指導者、引率者、選手）】

- ・競技中以外のマスク着用を徹底する。
- ・こまめな手洗い、手指消毒を徹底する。
- ・3密（密閉・密集・密接）の場면을回避する。
- ・以下の事項に該当する場合は大会参加を見合わせる。
 - 大会2週間前より健康観察を行いその間に体調がよくない場合が複数回、あるいは連続してあった場合（例:発熱・咳咽頭痛などの症状がある場合）
 - ※ただし、医師の診察の判断により、問題なければ参加可
 - 大会当日体調がよくない場合（例:発熱・咳咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ・来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告する。

【各団体の引率者等及び選手】

- ・2週間分の体調を記録した体調記録表（別紙1）の記録を作成、健康管理を徹底する。（各団体における毎日の健康観察カード等を代用しても構わない。）
- ・必要最低限の人数での参加とする。（登録選手、付添のみ。）
- ・大会に参加する選手及び保護者に対し、参加に当たっての注意事項等を事前に説明し、同意書（別紙4）を提出させる。その際、大会申込期日までに定期健康診断の実施が行なわれていない団体の選手については、保護者の責任のもと健康上問題がないことを確認したうえで

参加させる。

- ・大会中は、競技等実施時等を除いて、基本的にマスク等を着用し、咳エチケットを徹底するよう指示をする。（ただし、活動中や気候の状況等より、熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外すよう選手に指導する。）

【福井県剣道連盟】

- ・参加団体に対し大会の主旨、感染拡大予防ガイドラインを周知徹底する。
- ・選手、引率者等及び大会関係者に、マスク等を準備させる。

2. 施設管理者へ確認

【福井県剣道連盟】

- ・各施設の使用制限、使用ルールについて
 - ・手洗い場、トイレ等には石鹸があるか ← アルコール消毒液及び手洗い石鹸は。
 - ・アルコール等の手指消毒剤を用意できるか ← 県剣道連盟で準備する。
 - ・更衣室、待機場所のスペースが確保できるか ← 大会事務局で事前に割り振りを行う。
 - ・換気が十分できるか ← 出入口を常に開放する。
 - ・観客席の収容人数等の確認 ← 県立武道館コロナウイルス対応人数
 - ・試合後の会場消毒について
- | | |
|------|----------------|
| 剣道大 | 911人（観客席 911人） |
| 剣道小 | 160人 |
| 会議室1 | 62人 |

3. その他

【各団体の引率者等及び選手】

- ・団体でまとまって会場へ移動する場合、バス等の車内が、密集・密閉空間にならないよう、運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。

大会当日の対応

1. 受付

【各団体の引率者等及び選手】

- ・各団体集合時に引率者の責任において、選手の検温・体調確認を行う。
- ・引率者等は選手の体調を確認し、大会当日受付時等に、団体同行者体調記録表（別紙2）の提出をする。

【福井県剣道連盟】

- ・団体同行者体調記録表（別紙2）に記載された者以外の来場者（競技役員等）に対し、来場者体調記録表（別紙3）に、必要事項を記入・提出を求める。
- ・県立武道館玄関前付近で、検温、消毒用アルコールによる手指消毒を行う。
- ・剣道大道場と剣道小道場入口付近に手指消毒剤を設置し、手指消毒を徹底させる。
- ・発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は会場へ入場させない。
- ・マスクを持参していない人にマスクを配布し、着用してもらう。（予備マスクの準備）
- ・受付を行うスタッフには、マスクを着用させる。

※当日に記入すると受付が混雑するため、事前に記入できるところはしておいてもらう。

2. 競技全般

【試合に関わる全ての者（大会役員、審判、指導者、引率者、選手）】

- ・競技中以外のマスク着用を徹底する。
- ・こまめな手洗い手指消毒を徹底する。
- ・3密（密閉・密集・密接）を避ける工夫をする。

【各団体の引率者等及び選手】

- ・引率者等は、集合時、更衣後、ウォーミングアップ終了後、試合前後、解散時等、こまめに、選手の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど、集合時から解散時まで選手の健康観察を徹底する。
- ・引率者等は、集合時、待機中、休憩中などにおいて、生徒同士の間隔が、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くように指導する。
- ・大会中に、選手等の体調不良を確認した場合、大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し、当該生徒の体調を確認するとともに、安全に帰宅させるなどの対策を講じる。
- ・大会は、必要最低限の人数での参加とする。大会実施要項に定められた規定人数までとする。

【福井県剣道連盟】

- ・観客については入場制限を設け、大会実施要項に定める。
- ・開閉会式は極力簡素にする。人数制限を行う。
- ・試合会場待機場所について、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、選手同士の間隔を取らせ、対面をさけ、会話は控えるよう指導する。
- ・対戦相手や審判等との握手、仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣、ハイタッチなどの実施を制限する。
- ・各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回、確認する。
- ・申し合わせ事項を遵守させる。
- ・道具を共有する競技は可能な限り試合前後に使用した道具の消毒を行う。
- ・必要に応じて参加者が遵守すべき事項の掲示・注意喚起する放送を行う。

<会場施設とも確認し、対応>

- ・審判、監督者会議等を実施する場合、人と人との間隔が、できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう、椅子の配置を広くするなどの工夫をする。
- ・会場内で人が密集しないよう、一度に会場に入れる人数や団体数等を制限するなどの工夫をする。
- ・1時間に2～3回程度、会場のドアや窓を開け換気を行うなどの工夫をする。その際、試合会場の窓等の開閉が困難な場合は、利用する施設と連携し、換気施設を適切に運転する。この場合においても、1時間に2～3回程度、会場の入口等を開け換気を行うなどの工夫をする。

【その他】申し合わせ事項

- ・熱中症対策として、各自での十分な水分準備。(給水器など、共有する物は使用しない)
 - ・競技中マスク面マスク (鼻を覆い隠せるもの)およびマウスシールドを必ず着用し飛沫の飛散防止に努める。
 - ・競技中以外もマスク (もしくは面マスク) を着用する。
 - ・試合の進行状況により試合をする選手待機場所、応援場所、試合がない団体の待機場所を決め選手同士の交わりを避ける。
 - ・アップについては、団体で登録選手と引率者のみが行う。
 - ・福井県立武道館及びフロアの入場について
 - 団体戦 男子の部 選手5名+付添6名 (最大11名まで)
女子の部 選手3名+付添4名 (最大7名まで)
 - 個人戦 選手1人に対し付添1名+引率責任者1名 (最大13名まで)
 - ※ 審判、補助員は上記の数には含まない
 - ※ 付添とは監督もしくは保護者等大会役員、審判、補助員以外の者をいう
 - ※ 個人戦における引率責任者とは監督もしくはこれに代わる責任者をいう
- 試合の移動があまりないように試合順番を組む。ただし、決勝戦のみ該当する選手、保護者は全員フロアに入ることができる。
- 2階観覧席は団体ごとに控え場所を決め、密にならないようにする。試合のない選手・団体は2階観覧席で観戦・休養をとる。他団体の席への移動はしない。
- ・朝の入館については、入館前に玄関付近で「非接触型体温計による検温」、「アルコール消毒液による手指消毒」を実施後、下足用ビニール袋 (各自持参) に入れ入館する。混雑する状況が起きた場合は大会委員が指示をして入館するようにする。靴については各団体で管理をする。入館したら2階観覧席に密にならないように荷物を置く。2階通路には置かない。
 - ・応援は拍手のみとし、大きな声を発しないよう指導する。
 - ・役員・審判員・補助員は、マスクを着用することとする。
審判員の服装は、審判服・ネクタイ、不織布マスクとする。審判旗は各自持参する。
 - ・選手、役員・審判、補助員ともにこまめな手洗い手指消毒をする。
 - ・道具を共有する競技は可能な限り試合前後に使用した道具の消毒を行う。(各試合場で実施)
 - ・剣道具、竹刀、手拭い、タオル、その他剣道に関係する用具は、共用しない。
 - ・開閉開式はできるだけ簡素化して行う。閉会式は入賞者のみ整列し、表彰する。
各自の後始末は徹底して行い、忘れ物が無いように。水筒、タオル、小手、竹刀等